Fine応援メッセージ
「ことば」de スキンシップ!!

私の選んだ“終(つい)のすみか”

デートDVって？

いずみさの女性センターだより

Fine

（NO. 30）

いずみさの男女共同参画つうしん

デートDVって？

デートDVは交際中のカップル間に起こる暴力のことです。被害内容は身体的暴力・言葉による精神的暴力・自由な行動の制限・性行為の強要や繰り返しの妊娠（中絶）など、配偶者間のDVと変わりありません。10代～20代の人で交際相手から暴力を受けたことのある女性は13.5％（男性は5.2％）、20代女性に限ると22.8％がデートDVを経験しています。（2006年内閣府調べ） デートDVでは、被害者が「私は殴られたり蹴られたりしていないし、束縛も愛情のうち」と思い込んでいたり、周囲も“恋人同士の痴話げんか”と軽くとらえるなど見過ごされがちです。しかし暴力はいかなる場合でも許されるものではありません。恋愛を通してお互いを大切にする豊かないい関係を、いっしょに考えましょう。

Q1

「昨日誰といたの?」
「さっきのメール誰から?」
って聞かれてない?

行動やメール・電話の必要以上なチェック。
「“自分の彼女（彼）”にはプライバシーがなくていい」なんて思われてない？

※DV＝Domestic Violence ドメスティック・バイオレンス

Q2

「オレ（私）と○○とどっちが大事?」
「オレ（私）の好みの服装（髪型）にしろ!」
って言われてない?

いつも彼（彼女）の気持ちや好みばかりを最優先。
「オレ（私）の理想の女（男）」を求められてない？
本当に好きなら“あなたの気持ちやあなたらしさ”を尊重してくれるんじゃないかな？

ひとりで悩まないで
相談してください。
秘密は守られます。

いずみさの女性センター	072-469-7402 【電話相談専用】	毎週（水）（第5週・祝日除く） 10:00～12:00、13:00～15:00
泉南市人権推進課	072-482-0590 【電話相談専用】	毎週（木）（第5週・祝日除く） 10:00～12:00、13:00～15:00
ドーンセンター	06-6946-7890 【DV相談コーナー】	10:00～20:00（月・祝日除く）

〒598-8550 泉佐野市市場東1丁目295-3 TEL/072-463-1212 編集企画/泉佐野市人権推進部人権推進課 発行/2008年12月
HPアドレス/http://www.city.izumisano.lg.jp/section/hitohito/index.html Eメール/hitohito@city.izumisano.lg.jp

Fine
応援
メッセージ

「子育て」って
楽しいこともいっぱいあるけど
しんどいことも多くて
ひとことで言い尽くすことができませんね

親と子のイキイキした関係について
吉田　真知子さんに話していただきました

「ことば」de スキンシップ!!

吉田　真知子さん

ソーシャルスキル・
プログラム代表
人材活性コンサルタント

「親子関係」は「人間関係」!?

講演に参りまして、様々な年代の子どもさんを持つ方のお話を聞く機会がありますが、つくづく大変だなということを感じます。なぜ大変なのかというと、「子育て」は「人間関係」に他ならないと私は思うからです。

私たちは、ふだん「子育て」をあまり人間関係とは思っていないのではないでしょうか。「子育て」は、親が一生懸命に子どもを世話すること、教えることと一方的にとらえがちです。しかし、子どもは誕生の瞬間から一人の人間であって、親とは別の存在です。

親子関係も他の関係と同じようにうまくいくときもあれば、気まずくなったりすることもあるはずです。そこには「成功」やパーフェクトな関係はないと思います。親がものごとにおいてパーフェクトを求めると、子どもは「この世の中はパーフェクトでないといけないのだ」と思いがちです。もちろん、パーフェクトなんて存在しないのですが、そういうプレッシャーを与えることは子どもにとって望ましいことではありません。

「うちの子ってなんでこうなの?」

子どもが小学生くらいになると、「なんでうちの子はこうなの?」と思うことが多くなると思います。「なんで?」と思うのは「私だったらこんなことしないのに」ということが前提になっていて、よく考えてみると親の側の価値観だけで子どもの行動を判断していますね。

でも子どもは親とは別の欲求を持つ存在で、意欲の表現方法も違っています。ですから、親の考えをそのまま押しつけたりはできません。「この子はこういう方向に興味がある子で、それをこういう形で表現する子なんだ」と表面的な行動の芯にある、その子の意欲の方向性を理解し尊重することが何よりも大事だと思います。

親はよく子どもに答えを授けようとします。教え授けることも大切です。たとえば、安全について・生活のリズム・食生活についてなどです。でも、すべて教えることのみでやりきってしまうと、子どもの意欲をなえさせてしまうと思います。思春期のむずかしい時期に自分の中に答えが見つからない、何の意欲もわかないといった心の状態になる可能性があるのではないでしょうか。

親子がイキイキできる コミュニケーション

子どもの意欲を尊重するには、まず子どもの話を聴くこと。親はすぐアドバイスしてしまいそうになりますが、そうすると子どもは話さなくなります。ぜひ子どもの話を傾聴すべき価値のあるものとして、しっかり受けとめてください。

そして「うちの子ってすごいやん!」て感じたら、その気持ちを素直に伝えましょう。親子はつながりが深い関係ですが、別々の存在です。思っているだけでは伝わりません。「私はあなたが、〜して嬉しかったよ。ありがとう」と、その場面でのあなた自身の気持ちを「私は・・・」で始まる言葉で表現してみましょう。すると、「お母さんお父さんは、私を認めてくれている」という自信につながっていくのではないでしょうか。

条件付で親はよくほめがちなのですが、それのみにならないように努力したいと思います。たとえば「我慢強いからえらいね」とほめるとします。この言葉には「我慢強くなければ価値がない」というメッセージも含まれていますね。こういうほめられ方オンリーになると、子どもは「我慢強くしないと評価されない」というしんどさを背負って生きていくことになります。ほめ方にもときどき小さな意識が必要です。

無条件に自分の存在を認めてもらえると、子どもにチャレンジの意欲ができる。そして自分に自信が持てるようになり、他者を受け止める力も持てるようになります。

「お母さんもお父さんも私も、いいところも少し良くないところもある人間だ。パーフェクトではないけれどもイキイキと生きている人間同士だ」ということを、親子で互いに認め合える関係を、ぜひ築いていただきたいと思います。

「老後をどこで、どう暮らすか」

考えたことはありますか?
自分の生き方は最後まで
自分で決めたいと
理想とする高齢者住宅づくりを
めざす向田さんにお話をうかがいました

向田　貞子さん

元アトリエF代表
NPO福祉マンションをつくる会理事

私の選んだ“終(つい)のすみか”

〜自分は老後をどこで、どう暮らすか〜

夫が亡くなって一人暮らしになり、「これからどうなっていくのだろう」と思い始めたのが、老後の“すまい”を考えるきっかけです。子どもはいますが、自分も親の介護を経験してきた中で、血縁だけで支えるのは無理だと思いました。それから地域で支えるのもむずかしいかなと。これは、地域によると思いますが、私が住んでいるのはできて20年の新しい街で、老後の暮らしを支えるシステムが見えにくいように感じていました。

そんなとき、伊豆にある『友だち村』に行く機会ができました。『友だち村』というのは、血縁にとらわれない『結縁』という関係の中で、個人のプライバシーは大切にしながら、お互いに支え合って暮らすことをめざしてつくられた高齢者住宅です。とても素敵な暮らし方だと思いました。考えてみれば、近くに住む娘や孫といっしょに食事をしたときなど、話題が合わなくて何となく疎外感を感じることがあるんですね。だったら、同年代の友人と話をした方が楽しいんじゃないかと。

そこで、大阪にも『友だち村』のような場所をつくれないかと思い、NPO福祉マンションをつくる会(※)に入って活動を始めたんです。

〜自分の生き方は最後まで自分で〜

「年をとったら田舎でのんびり」という方も多いと思いますが、都会育ちの私には向かないと思い、利便性のよい土地を探した結果、京都の堀川通に面したところに土地がみつかり、ここに決めました。全49室のマンションで、そのうちの1室が私の“終のすみか”になるでしょう。マンションの事業主体は株式会社ですが、自分たちの希望を提案しながら進めてきました。特に私がこだわったのは“書架のある談話室”です。「知らない人ばかりのところで暮らすのは不安じゃないか」という質問をよくお聞きするのですが、むしろ同じ価値観(そこを“すみか”として選んだ)を持つ者同士が暮らすわけですから、新しい出会いがあるんじゃないかと思うんです。もちろん今まで住んでいた地域をはじめ、様々な出会いのあった友人たちも大切にしたいと思いますよ。

どんな暮らし方がいいかは、個人で違うと思いますが、どう暮らしたいのかを考えるためには、いろんな情報を「ゲット!」することが必要ではないでしょうか。私は、自分の生き方は最後まで自分で考えて決めたいと思います。

※NPO福祉マンションをつくる会
「住みたい地域に安心して住み続ける」ために、住まい手自身が話し合い、学び、知恵を出し合って、新しいかたちのコミュニティをつくっていくことをめざしている

BOOKS RECOMMENDED
おすすめ本紹介

北村　年子著
1,400円＋税
【女性センター所蔵】

おかあさんが もっと自分を 好きになる本

子育てって、思うようにいかないもの。
「いいお母さん」にならなくちゃ、とがんばりすぎてイライラ…。
この本は、そんなお母さんに、まず自分を好きになりましょう、と語りかけます。自分を好きになり大切にできないと、子どもを尊重することはできません。
本には自分の考えや思いを書き込めるページがあり、読みすすめながらリラクゼーションしたり、自分自身をほめたり、許したり。
著者のまなざしは常に優しくあたたかで、子育て中の母親の気持ちに寄り添います。育児に悩む人も気持ちが少し軽くなるのではないでしょうか。
子どもとのいい関係のつくり方だけでなく、人とうまくコミュニケーションをとる方法も満載で、お母さんでなくても落ち込んでいる人にも効果がありそう。みなさんにお勧めしたい一冊です。

（辻　淳子）

「私の傍聴体験」

～裁判員制度のスタート前に～

私は、裁判員制度の勉強を目的に、年に一度裁判の傍聴をしている。
それは、もちろん自分が裁判員になったら･･･という危機感がきっかけだが、法廷の中で、女性がどんな風にあつかわれ、どのような事例で関係してくるのか、実際に見て体験したいと思っていたのも理由の一つ。
大阪地方裁判所に行くと、毎日何件かの裁判がある。誰でもチェックなしで入れるので、ロビーで当日の裁判予定表を見て傍聴したい法廷を選ぶ。午前中だけでも4つくらいの裁判を傍聴できることもある。
では、今までの傍聴で記憶に残っている裁判を少し紹介。
覚せい剤中毒で窃盗を繰り返す被告人の男性。傍聴席を一瞥（いちべつ）。弁護士側の証人席に被告人の母親が立ち、弁護士からは「今度こそお母さんがしっかり支えてやってくださいよ」と言われ、検事には「どうしてしっかり見張っていなかったんですか?」と責められ、どちらからも母親の責任を求められる。40歳過ぎた息子を自立させられなかった責任？ 母親はいくつになったら「母親業」から解放されるのか･･･。
私のアンテナは、女性の人権に対してはかなり敏感だ。それは、女性センターに関わりながら、何年も積み重ねた学習の成果だと自負している。法務省が裁判員に求めていることの中に、「市民感覚で裁判を見て、思った事や感じた事を裁判に反映して欲しい」とあるが、本当に様々な意見が反映されるのだろうか？ 私が今まで傍聴してきた裁判でも、弁護士は被告人の減刑を考えた上で証人を呼び、母親や妻に女性としての固定的役割を求める。私の中では母親や妻といった固定的な性別役割分担意識が、裁判でどんな影響を与えているのだろうという疑問が残る。
こういう疑問に行き当たるのも、裁判の傍聴を続けてきたからだと思う。私は来年の5月に裁判員制度が実施された後も傍聴経験を積み重ねながら、この日本の現実に目を向けていきたいと思っている。

（エンパワーズ 中村　初美）

Information
お知らせ

1.ご存じですか？ 開館日・休館日

開館日・時間
火～土曜日　午前9時～午後5時
（ただし、第4木曜日は午後8時まで）
休館日
日・月曜日
（日・月曜日が祝日と重なった場合は翌火曜日も休みです）
国民の祝日
年末年始（12月30日～1月4日）

2.登録グループを募集しています

現在、女性センターには8つのグループが登録しています。登録グループには、活動場所や活動していくために必要な情報の提供を行っています。男女共同参画に関する活動をしているグループは登録しませんか。

3.本を貸し出しています

「男女共同参画」や「男女平等」をキーワードにして、子育てや生き方、仕事、心やからだに関する本の貸出しを行っています。国や自治体が出している統計資料やリーフレットなども見ていただけます。

編集後記

“Fine”も30号を迎えました。今回は(も？)色んな意味で難産でした。
作成にあたり、諸方面から様々なご助力をいただきました。あらためて御礼申し上げます。願わくば、多くの人たちが思いをこめたこの一部一部が、必要な方々の元に届き、その力となりますように･･･（竹森 まゆみ）

『Fine』(No.30)を読んでのご意見、ご感想をお寄せください

〒598-0005 泉佐野市市場東1丁目295-1
いずみさの女性センター
FAX/072-469-7125
Eメール/hitohito@city.izumisano.lg.jp